

監査委員に就任

新知事の新たなビジョンは示されず！

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

臨時議会で選任

新しい道議会での正副議長や各常任委員会体制などを決める臨時議会は、5月16日から22日の日程で開催され、議長には村田憲俊議員(後志地域)、副議長には高橋亨議員(函館市)がそれぞれ選出されました。そして議員選出の監査委員



議員選出の北海道監査委員に就任(5月23日撮影)



村田議長(左)と高橋副議長(右)

員には、自民党派から富原亮議員(渡島地域)と民主・道民連合会派から北口雄幸議員が選任され、鈴木直道新知事から辞令を受けました。

喫煙室は設置せず



道議会庁舎は、建設から既に60年以上が経過し、老朽化が著しいことから、現庁舎の西側に新しい庁舎の建設が進められています。

新庁舎は、来年1月に完成し5月頃に引っ越す予定ですが、北口道議が所属する民主・道民連合会派としては、新庁舎内での喫煙はしないことを決めました。

現在、新庁舎内に喫煙室を求めているのは、自民党派だけですが、自民党派でもその是非について議論を進めるとしています。

監査委員は、独任制の機関であり、道が執行する事務が適正に行われているかなどをチェックし、住民や議会等はその情報を提供します。そのため、監査委員は、独立の執行機関として、公正不偏の立場から監査を実施します。ちなみに監査委員室は、道庁別館の11階にあります。

環生と北特に所属

道議会の委員会で北口道議は、環境生活委員会と北方領土対策特別委員会に所属することになりました。

環境生活委員会は、私たちが生活する上で必要な交通安全や消費者、ごみ問題、さらには文化やスポーツも担当します。

来年の4月24日には、白老町にアイヌ文化復興・創造の拠点である「ウポポイ(民族共生象徴空間)」がオープンすることが決まっております。さらに7月には東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、環境生活委員会での重要な議論が求められています。

また北方領土問題は、戦後ロシアによって不法に占拠され、今でも解決できない大きな課題です。一日も早い解決と、ロシアとの平和条約の締結を求め、力強い外交交渉を後押しする必要があります。そして世論喚起を促すためにも、北方領土対策特別委員会の役割はさらに重要なものになります。

第二回定例道議会報告(6月20日~7月12日)

新鮮味のない道予算

鈴木新知事が提案した政策補正予算案は、一般会計に251.3億円を追加し、当初予算と合わせた総額は2兆860.9億円(前年度当初比4%増)となりました。知事は、選挙での公約の多くを盛り込んだ内容としていますが、これまで道が取り組んできたものを踏襲した新鮮味のない施策ばかりが目立つ予算となりました。

改善しない道財政

さらに、道財政の改善は進まず、実質公債費比率は全国最悪の水準で、2026年度には早期健全化団体に指定される早期健全化基準の25%に迫ると予想されています。歳入では道債を715.6億円と見込んでおり、道債依存度は25%と過去10年間で最も高い水準に

達しています。また一般財源ベースで440億円の歳入不足となる見通しです。道債残高は過去最高の5兆890.0億円に達する見込みで、財政再建は待ったなしの状況となっています。

看板政策も不透明

鈴木新知事に対し、今後の道政運営、政治姿勢を質しましたが、いずれも「現計画・方針に沿って」「整合性を図り」という、従来の道政運営を踏襲する旨の答弁が目立ち、道政執行方針に掲げた3つの基本方針の姿形は見られません。選挙公約の「ほっかいどう応援団会議」を目玉政策として打ち出し、2500万円の予算を計上。外部から資金を獲得して事業を行うのが狙いとしています。地域活性化や財政再建にどれだけ貢献するのかなど、政策の効果や意義は不透明です。

カジノ調査に3百万円

カジノを含むIR誘致について知事は、道独自に道民の意向を調査する考えを示し、補正予算案に道民の理解を促進するための普及活動費として300万円を計上しました。経済効果が不透明なことに加え、依然としてギャンブル依存症への不安が根強く道民には残っています。

危機感薄い農業政策

また、エネルギー政策については、ベースロード電源における原子力発電の位置付けの認識を質しましたが、国の基本計画に追従する姿勢が透けて見えます。北海道の基幹産業である農業については、農家戸数の減少や担い手不足が深刻さを増している状況にも関わらず、地域農業の生産力の維持・強化を図るという程度の認識で、現場が抱える課題への危機感は希薄と言えます。また、国際交渉の

先行きが見えないという理由で、影響額の試算には極めて消極的な姿勢です。

JR北へ支援、2億円

JR北海道の路線問題については、「単独では維持困難」とした8区間を対象に、2年間に限りということでした。現在の経営状況を招いた原因となる国鉄民営化を行った国の責任は曖昧な状況となっています。

第2回定例会で可決された補正予算

単位：千円

	一般会計	特別会計	合計
当初予算額	2,609,664,272	1,138,394,302	3,748,058,574
今回補正額	251,285,243	935,943	252,221,186
合計	2,860,949,515	1,139,330,245	4,000,279,760

組み替え動議を提出

知事の答弁は総じて、難局を打開する意欲に欠け、北海道の未来をつくりあげていく方向性が示されないままに終始しました。

採択された意見書

こうした議論経過などからわが党派としては、令和元年度一般会計予算案については、組み替えを求める動議を提出しましたが、否決されたため反対しました。

- 地方財政の充実・強化を求める意見書
- 令和元年度北海道最低賃金改正等に関する意見書
- 新たな過疎対策法の制定に関する意見書
- 国民健康保険の子どもに係る均等割保険料(税)軽減措置の導入を求める意見書
- 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書
- 道路の整備に関する意見書
- 義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保・拡充を求める意見書
- 私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書

写真で振り返る北口道議の活動記録(4月〜6月)



士別地区森林組合通常総会で挨拶(4月27日)



屯田兵屋の清掃作業(4月26日)



士別市九十九大学・大学院入学式(5月10日)



日ハム後援会の応援ツアーに参加(4月29日)



士別市消防総合訓練大会で挨拶(6月24日)



士別高退連パークゴルフ大会で挨拶(6月9日)



JR北海道労組旭川地本定大で挨拶(6月29日)



木佐中富良野町長がラベンダーをPR(6月27日)



山林での笹狩り作業(4月30日)



←きたごりんファームでの作業風景・田植え(5月26日)
→除草作業(6月24日)



北口ゆうこう奮闘日記

<http://y-kiaguuchinet/>

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(4月～6月分)

◆4月21日【牧柵整備】▼今



牧柵整備に集まった皆さんと記念撮影

日は素晴らしいお天気に恵まれ、市民270名が参加し、土別市の観光スポットである羊と雲の丘の牧柵整備を行った。やはり、人数である。約1時間で見違えるように牧柵がきれいになり、これで多くの皆さんにお越しただけのものと思っ

◆4月27日【旭川地区メー

デー集会】▼今日は旭川地区連合会(高橋紀博会長)の第90回統一メーデー集会に参加。集会の前段には、クイズゲームのアトラクション。その後の集会では、700名の働く仲間が参加し、働くことを軸とする安心社会の実現を確認した。集会後は、2つのグループに分かれて旭川市内をデモ行進し、格差是正や平和を守ることなどを訴えた。



旭川地区メーデーのデモ行進にも参加

◆5月31日【土別市シルバ

ー人材センター定時総会】▼土別市シルバー人材センター(佐藤準一理事長)の定時総会に出席。企業の定年延長や市役所での再雇用など、雇用環境の変化により、シ



土別市シルバー人材センター定時総会

ルバー人材センターの会員確保には苦労しているとの事である。それでも、土別市シルバー人材センターでは、ほぼ前年同数の会員を確保しており、高齢者の雇用環境の確保などに「尽力いただいている」とのことだ。

◆6月24日【日台親善協会

▼土別市・剣淵町・和寒町・



土別地域日台親善協会にて記念撮影

幌加内町で構成する「土別地域日台親善協会(西本護会長)」の第3回定期総会及び懇親会に出席。今日の懇親会では、台北駐日経済文化代表処札幌分処の周學佑処長をお招きし、土別地域と台湾の経済文化の交流促進に向けた取組について意見交換したとのことだ。

◆6月30日【ビートまつり



ビートまつりの関係者で記念撮影

▼今年で5回目となる「土別ビートまつり(菅原美喜雄実行委員長)」に参加。土別ビートまつりは、2年に1度で2011(平成23)年から開催されている▼今年、日本甜菜製糖株式会社が1919(大正8)年6月に創設されてちょうど1

00年、そして1899(明治32)年に最後の屯田兵が土別に入植して120年の節目の年にあたり、それを記念しての開催である。今年は素晴らしいお天気に恵まれ、日甜土別工場構内の特設会場は多くの皆さんで賑わったとのことだ。

【カウチウ】

▼「ピンチをチャンスに」。「道民目線」・「稼ぐ道政」。これは、鈴木知事が知事選挙で訴えていた言葉だ▼鈴木知事初めての第2回定例会では、「何がピンチで、どのようなチャンスに変えるのか」や「道民目線とはどのような尺度で判断するのか」などを質したものの、誰もが判る答弁は得られなかった▼唯一、政策に盛り込まれたのが、「稼ぐ道政」で、「ほっかいどう応援団会議」の創設だ。今年9月までには設立することだが、「どの程度の財源を想定しているのか」や「この事業が市町村の地域振興にどう寄与するのか」など、具体的にはならなかった▼言葉だけの政策はいらないと感じたのは、私だけだろうか・・・(ゆづり)